

「砂漠を緑に」13次隊活動 江塚執行委員の報告



社会貢献活動「砂漠を緑に」13次隊29人が、4月12～17日、中国・ホルチン砂漠で活動した。本号では、事務局として参加したドコモ本部・江塚執行委員が活動報告する。

組合員の協力に感謝の全員の気持ちに3800本

緑化活動では、まず過去の隊が植えた木々の成長を確認し、活動が砂漠緑化に確実に繋がっていることを実感。参加者の意気込みもさらに増した。

今回は、ポプラ一三〇〇本とニンテアオ二五〇〇本の苗木を植林。ポプラは約七〇cmの深さの穴を掘る必要があるが、掘ったそばから穴が砂で埋もれていき、コツをつかむまで苦戦した。苗木を植える地を固めて、成長した松の枝を間引くことで効率的な成長を促す剪定作業も実施。一連の作業から、緑化とは木を植えるだけではないことも学んだ。

現地大学生との交流では、最初こそ言葉での意思疎通が困難だったが、一緒に作業し、時間を共にすることで、重要なのは言葉だけでなく、気持ちを一つにすることだと感じた。

活動中は、瀋陽の「九



・一八歴史博物館」で平和学習会も実施。中国側から見た満州事変以降の「抗日戦争」の歴史を学び、日中間の歴史認識の違いを知る。目を背けたくなる内容が多かったが、これを機にあらためて正しい史実を調べたいという意識が芽生えた。

最終日には、「緑化活動に必要なもの」帰国後、自分たちができること」を全体で話し合った。私たちがすべきことは少しでも多くの人に活動を知らせていくことであり、活動を今後につなげていくためにも、この六日間で感じたことを「発信」していくことの重要性を全体で確認し、活動を締めくくった。

今後、一三次隊二九人は、今回の活動で感じたことをさまざまな機会を通じて組合員の皆さんに共有するとともに、各自ができる社会貢献活動に参画して

いく。今回の派遣にあたり、組合員の皆さんには物品購入やカンパにき続き今後の活動への理解・協力をお願いしたい。

だいた。心から感謝申し上げるとともに、引き続き今後の活動への理解・協力をお願いしたい。

Red Hurricanes™ 『Speed Rugby』～相手より速く～



2012年度新加入選手 (8人)

氏名	ポジション	生年月日	身長	体重	出身校	代表歴
西村 尚記	プロップ	1989年11月27日	178cm	115kg	帝京大学	
土屋 鷹一郎	ロック	1989年12月 4日	187cm	95kg	早稲田大学	高校日本代表
川田 涼	フランカー	1989年 8月 9日	174cm	85kg	山梨学院大学	
金 栄◎ (◎=火へんに大)	フランカー	1982年10月20日	179cm	98kg	大阪産業大学	日本A代表
千布 亮輔	ナンバーエイト	1989年 3月 2日	182cm	100kg	明治大学	高校日本代表
安 承◎ (◎=火へんに継)	スクラムハーフ	1983年 3月23日	183cm	85kg	高麗大学	韓国代表
秦 一平	スクラムハーフ	1990年 2月 1日	152cm	53kg	明治大学	
佐藤 善仁	スタンドオフ	1990年 3月14日	178cm	84kg	東海大学	

『広島ピース号23』に参加して



植野 美樹さん
親:エンジ四国分会

戦争はだめ 家族・友達に伝える

私は、広島ピース号に参加する前は、広島に投下された原爆のことは、テレビなどでは見ていましたが、くわしく知りませんでした。でも、広島ピース号で、原爆の恐ろしい

戦争はだめ、家族・友達に伝える。広島に原爆を落とされた当時は、日本は戦争中で、大勢の人がな



鈴木 美優さん
親:モバイル分会

広島で分かったことを未来へ

私は、埼玉県に住んでいます。なので広島も、『広島ピース号23』に参加して、平和

広島で分かったことを未来へ。一九四五年八月六日、午前八時一五分、広島に原爆が投下され

平和活動『未来へピース！』



東京大空襲から「平和」を学ぶ

ドコモ東京ブロックの分会合同で、初の平和活動『未来へピース！』を四月二四日に

実施しました。当日は、あいにくの雨でしたが、組合員と家族三四人が東京大空襲戦災資料センターに集まりました。

東京大空襲は、一九四五年三月一〇日、江東区の木場を第一目標に爆撃が開始され、二時間半にもわたる爆弾投下により、東京二三区の三分の一以上が焼け、推定一〇万人を超える命を奪いました。

当時、小学生だった江角恵子さんの体験談の、「当時の楽しい思い出がない」という言葉に胸が痛み、悲惨な状況が伝わってきました。参加者は、あらためて平和の尊さを感じたいと思います。

子供たちも熱心に資料館の展示物を見ていました。今回の活動で子供たちの心に植えた平和の種。いつか芽が出て花が咲くはずですよ。未来へピース！

(中央分会 松本通信員)